

後と傳へぬふよし則海中に石の多井あり
今に至りてある月より文月然て星河さへ
やりなる夜ハは沖より龍灯あつて出で
半天より昇り又海上は落てて光消を明る
ふ思後豈に夢に及まんや則龍鱗入夢の時
首羽黒山より遠隔の靈社と云く或人曰
古國社へ幸納のふあ上方龍石の多井を積
下りるには浦の沖まで破龍をーとそふ
に海中は見るふ是なるもや又一書に蛟
龍といふもの水中ふありてはより火を

おとといふ事あり龍龍と古人いふは是
まや

一 新迹堂

金山村にあり底内の大仏と西目の新迹と
いふ是なり新迹の伝説と云傳へり新迹の
年記詳なり

一 章比大権現

三濃村にあり祭神 仲哀天皇なり社地
は池あり章比大の池といふ社伝に又
石地方三濃村馬平元和元年卯二月焼失